midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

November 2011 No.317-318

１１月号の１枚：デジタルハリウッド大学を受入れ

［巻頭言］ ん？、デジタル・ハリウッド大学

森林NPO活動から、新しい森林再生の時代が開けるか

信頼・尊敬している会員が秋葉原に新設した「デジタル・ハリウッド大学」を紹介してきた。ハリウッド映画ならわかるが、デジタル・ハリウッド大学が秋葉原駅前にできたとは何だかフザケタ名だが、持ち前の好奇心が働いて訪ねることとした。

十数年ぶりに秋葉原駅に降り立ってビックリしたのだが依然は、やっちゃば（野菜卸売市場）と電気部品・小売商が混然と入り混じっていた街区が今や、総ガラス張りの高層ビルがニョキニョキとそそり立っている一大ビル街に変身している。その駅前一画に「デジハリ大学」があった。

あらゆる情報がデジタル化された現在、ＩＴ技術やインターネットの知識が不可欠となり、世界中が自由に情報を受・発信するようになっている。

「デジハリ大学」はこうしたデジタル情報を発信するだけでなく、分かりやすく伝える技術を更に進化させるために研究し、開発しようという大学と言うより研究機関である。

そこで紹介された吉田研究室の授業に体験参加した。授業は、新製品の流通改善報告であったが、個人が投稿したメッセージがインターネットを通じて一瞬にして世界中に伝わり、その意見に同調する人たちが一丸となって世界を動かす様子を紹介した。

全ての生き物に不可欠な生存条件である“空気や水”を供給してくれる森林が急速に地球から減少していく恐怖を一人でも多くの人に伝え、あらゆるジャンルの人々と協働してこれを阻止するために、このような技術も取り入れなければならない。デジハリ大学・吉田教授とは、当会の森林救済活動と協働することを視野に入れて付き合い始めた。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.11

11月 6日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

11月20日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

10月2日（第一日曜日）

今回の活動日の朝は、雨の不安がよぎる曇り空でした。気温も低く、肌寒さを感じました。今回、Forest Nova☆からは9名が参加しました。山主さんにも活動場所に来ていただいて、活動内容を一緒に考えていただきました。

当日の主な活動内容は、小原の森にある間伐材の処理と、拠点周辺の川沿いの土留めでした。間伐材はロゴソールとチェーンソーを使って、真っ二つに切りました。土留めでは、材加工に不向きな細くて長い材を使いました。子供たちに小原の森に来て遊んでほしいという想いに、私も強く共感したので、作業に力が入りました。特に、材を運ぶとき、１年生を中心にスムーズに運びだすことが出来ました。細い材でも、非常に重かったです。それが、自分たちより長く生きてきた木の命の重さであるということを想像すると、感慨深いものがありました。また子どもたちのために間伐材が必要ということなので、70ｃｍ程の丸太を8本ほど切り出しました。子どもたちの笑顔が楽しみですね。さらに緑のダムの方々がヘルメットを洗ってくれました。嵐山のヘルメットは比較的きれいなのですが、小原のものはカビが生えていて非常に危険な状態でした。ストラップを外して、しっかりと洗って、ロープで干していただいたので、ピカピカになりました。

作業後はすいとんパーティーを山主さんのご自宅で行いました。すいとんに使った小麦粉は、こちらのお宅で育てられた麦から作られました。以前に、Forest Nova☆も脱穀や麦刈りのお手伝いをさせていただき、今回はそれをすいとんにしていただけるということで、みんなとても楽しみにしていました。すいとんは香り深い味でとてもおいしかったです。その他にも、近所の方から頂いた中華おこわやポテトサラダなどが豪華な食卓を飾りました。おいしい食事においしいお酒に、話も盛り上がりました。その中で私は、11月の小原本陣祭でかごかきの担ぎ手が不足して困っているというお話を聞き、今年の小原本陣祭では絶対に担ぎたいと思いました。

今回、私はこの小原での活動の前に目標を立てました。それは、「小原の方々や一緒に活動に参加している緑のダムの方々とたくさんお話をする」です。今までは、積極的に話すことができず、貴重な機会を無駄にしてしまっていました。しかし、今回は皆さんからたくさんお話を聞くことができ、とても有意義で楽しい時間を過ごすことが出来ました。今後は、作業においてもしっかり貢献できるように頑張ります。ありがとうございました。

治田　世以良（Forest Nova）

[定例活動]若柳嵐山の森

10月16日（第三日曜日）

天候に恵まれたせいもあり、参加者は７８名。このところ中学生から大学生までの若者の参加が多く、石村さんは嬉しさを隠せない様子。今日も楽しく安全に作業ができたのですが、記事担当の伊藤さんがお休みということで、各班から寄せられた報告を紹介します。

[日本大学生物資源科学部]

スギ、ヒノキ人工林の樹木現存量を知るための調査枠の設定と全成立木の樹高の測定、間伐効果を知るため、最近伐採された樹木の切り株の数と大きさの調査を行いました。街で育った学生は道のない斜面や茂る藪の中で悪戦苦闘しながらも、新しい体験としてモリを味わっていました。最後に４０６ｍの嵐山頂上に登り、天候に恵まれた秋の相模湖の景観に歓声をあげました。（報告： 桜井尚武、日本大学教授）

[Forest Nova]

以前に間伐した材が腐ってしまわないよう置場にまとめる。倉庫の片づけ。物品管理のため棚にラベルを貼り付けたり、鋸の替え刃等の在庫の確認をしたりしました。また、１１月３日に行われる小原本陣祭・木工ワークショップの出店をさせてもらえることになったので、これまでに間伐した材を加工しました。今回の活動には留学生や高校生が参加しました。ふだん森や自然に触れ合うことの少ない学生からは「日常生活では得られないよい体験ができた上に、森を守っていく必要性を学べました」という感想もありました。（報告：植木聡、Forest Nova）

[望星高校、高井戸中学]

午前はSPP調査の続き。胸高直径、樹高測量、照度測定。モマ工房上とＢ地区の下の区画との比較を行いました。中学生は自分たちフィールドでも同様の調査を行うので、その練習として。

お昼には桜井先生に「なみすけの森プロジェクト」で取り組んでいる斜面を見てもらい、面積を測り直す必要があること、森をどう育てていくか、疎か密に仕立てていくかで間伐量が変わり、できる材の太さや価値が変わってくること、２割間伐するなら50本伐る必要があることを教えて戴きました。

午後は内野さん、石井さん指導のもと、枝打ちを行いました。かなり林内はすっきりしてきて、いよいよ間伐を進めていきたいと思います。（報告：宮村連理、 本会理事）

このほかにもいろいろな活動がありました。体験学校長の斎藤さんは１０人ほどの参加者を森に案内。黒川さんの養蜂場を見学した後、径路に這い出た親指ほどの太さがある巨大ミミズを見ながらの森林土壌話、スギの切り株を前にしての木材の話など、いつも通りの懇切丁寧な解説に皆さん満足された様子。お花畑班は川田さんの高校時代同期の井伊さん、薄井さん、岡田さんが急遽梅の剪定に加わり、これでもかというほど大胆に枝を切り落としてくれました。枯れたら私が責任をとることになっているのでご心配なく。実家にある苗木を持ってきます。石村さんは嵐山協働協約のための測量で森の中。県の測量士がスムーズに仕事ができるよう藪払いを行いました。作業に加わった小林さんも、山口さんもクタクタになったとのこと。お疲れさまでした。今日も実り多い一日であったようです。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

9月24日

２１日の台風で、南斜面（大磯側）の倒木が多数生じたようで、遊歩道にも何本もの倒木が倒れかかり、歩行にも支障を生じているような状況で、チェーンソーを使っての倒木の玉切りに精を出しました。

ところが、途中からチェーンソーがエンストし、 どうやってもエンジンがかかりません。仕方ないので、担当者３名で戸塚の修理工場に持ち込んでチェックをしてもらいました。結果、燃料中のオイルが劣化していてエンジントラブルの原因となったとのこと。燃料タンクを空にして掃除 してもらったら、快調にエンジンスタート、やはり日ごろのメンテナンスが大事なんですね！！結局この日はチェーンソーを持ちかえったところでタイムアップでした。他の人たちは、終始台風跡 の始末に追われたようです。

佐藤　憲隆（湘南の森）

上左：学生を指導する桜井先生
上右：中学生の毎木調査
下左：丸太を運ぶフォレストノバ
下右：梅の剪定

[報告２] UIA2011
東京チェアシティ展

５年前、相模湖町（現・相模原市・緑区・予瀬）の商工会から町の活性化のための事業起こしに、当会の国際認証の森の木を使って何かアイデアを出して欲しいと要望があった。

それではと“全国から斬新な木の製品のアイデア募集”と言うのを仕掛けましょうと提案した。そこで先ず、「森林再生事業促進実行委員会」というのを商工会と当会で立ち上げて全国に呼びかけて見ることにした。当会は何時も唐突に無鉄砲に行動を起こすのだが、果たして反応があるのやら、、、と心配したが来るは来るわ、佐賀・岡山、和歌山、千葉、宮城、、、、それこそ全国・津々浦々、300点以上、小学生から美術学生、専門のデザイナーから作品が送られて来た。

いずれも意外性に富んだ見事な発想の作品で審査には古谷誠章教授（早大）など名だたる専門家にお願いした。これは面白いと３年続けたのだが４年目に飛び込んできたのが、「世界建築会議・UIA2011東京大会」であった。まさか！神奈川の山奥で森林NPOをしている「緑のダム北相模」にである。

立ち上げて４年間で、凡そ1200点もの応募があった。これらの中から特別のものを最優秀賞・優秀賞・佳作等、６点を選んで実物作品にして出品することにした。「森林再生事業促進実行委員会」の選んだ作品は、東京丸の内・東京国際フォーラムをメイン会場にした「UIA2011東京大会」の一画、丸の内・オアゾ館（旧・国鉄本社跡地）の１階フロア―を使って9月23日（金）～10月2日（日）まで、展示開催する事となった。

10月1日（日）の表彰式会場・オアゾ館１Ｆは人で一杯になった。チョッと驚いたのは、優秀賞になったドイツ・フランクフルト工科大学に留学している学生Ｙさんが、この表彰式のためにワザワザ、留学先から帰国して参加してくれた事であった。世界建築会議にふさわしい「国際認証林：若柳嵐山の森」の晴れ舞台であった。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告３]
フォレストノバ活動報告

「嵐山・環境教育」

今月10月9日に、Forest Nova☆主催の環境教育を嵐山で行いました。対象は桂北小学校の生徒たちです。広報不足と地区の運動会が重なってしまったので、参加者は小学生２名と保護者１名の３名でした。Forest Nova☆からは10名が参加しました。

9時30分ごろから嵐山を散策しながら、土の働きを知る実験や観察を行いました。土は保水力があることや、生き物の住処になっていること、植物が土になることを学んでもらいその中で、見つけたものや、その場所について、お気に入り度などをカードに記入してもらいました。子供たちは、観察力に優れていて、森についていろいろなことを知っていて、こちらから聞いた質問にたくさん答えてくれました。

みんなで森の中でお昼ご飯を食べた後は、栗林で色鬼をしました。森の色を感じ、森にはいろいろなものが落ちていることを知ってもらおうと企画しました。子供たちだけではさみしいので、Forest Nova☆のメンバーも全員が参加して、みんなで楽しく森で汗をかくことができたと思います。

色鬼の後は工作を行いました。家に飾って森への玄関口にしてもらおうということでタペストリー（壁掛け）を作りました。子供たちに木の板を渡し、どんぐりや木の枝、さらには色鬼で見つけたものを使ってオリジナルのものを作ってもらいました。Forest Nova☆のメンバー3名も子供たちと一緒にタペストリーを作りました。最後にはみんなで完成したタペストリーを見せ合いました。みんな夢中で作り、とてもすてきな作品ができていたと思います。

最後にまとめとして、土の働きについてもう一度確認してもらいました。時間がたっていたのにも関わらず、2人だけで穴埋めの問題を

スルスルと埋めていってすごいなあと思いました。また最後にはどこが一番気に入ったか考えてもらいました。色鬼をやった栗林が人気でしたが、また遊びに来たいと何度も言ってくれていたので嵐山全体がお気に入りの場所になっていたのではないかと思います。

当初、人数が少なくて開催できるかわからなかったのですが、子供たちが「行きたい」と言ってくれたので開催することができました。子供たちが本当に楽しんでくれたので、よかったと思います。

今回やってみて自分たちに足りない部分がたくさん見えてきました。次回やるときには、もっと子供を集めて、今回より良い企画を作り上げて、子供たちが自分の周りの自然や森を好きになってくれればいいなあと思います。ありがとうございました。

望月　亜佑子（Forest Nova）

[コラム]「森の話」第5回 花の形、その仕組み(1)

ノコンギク、シロヨメナ、タイアザミ、ツリフネソウ……。嵐山も10月ともなればこれらの花々で彩られます。春の花の賑わいとは対照的に、どことなく哀愁を漂わせる秋の花。冬の到来を前に最後の命を開こうとする健気な姿がそう感じさせるのでしょうか。

ところで、花は人の目を喜ばせるために咲いている訳ではありません。花は自分の子孫を残すため、即ち種子を実らせるためにつくられた器官です。どうしたら虫たち（虫でない場合もあります）の目を惹きつけ、受粉を達成することができるか。花の形はそこに集まる昆虫と密接な関わりを持っています。

例えばシロヨメナ（左上）。キク科植物は世界に２万種ほどあり、最も繁栄しているグループのひとつですが、この仲間の花は頭状花（頭花）と呼ばれる小さな花（小花）がたくさん集まり目立つようになったものです。真ん中のつぶつぶに見える部分は筒状の花の集まりで筒状花、周りの花弁状の花は舌状花と呼ばれ、キク科の花の多くはこの２種類の小花の組み合わせでできています。このタイプの花は開放的なつくりなので、花に潜り込む習性のないハナアブが主に花粉を媒介します。ハナアブが蜜を吸おうとして口吻を小花に差し込むと、雄しべや雌しべの先端に触れるという仕組みです。

一方、これと反対なのがツリフネソウ（右下）です。この花はあたかも舟を釣り下げたような形をしているのでこの名があります。萼片と花弁からなる筒形をした花の後部はくるりと巻かれていて、ここに蜜が潜んでいます。ただし、細い柄に支えられた横向きの花はぶらぶらと不安定。体が重く、飛ぶのが下手な甲虫類にはどう見てもとまれそうにありません。こんな花を訪れるのはマルハナバチの仲間。マルハナバチは飛翔能力に優れているため、不安定な花にもするりと潜り込み、長い口吻を差し入れて奥にある蜜を吸うことができます。その時、花の入口上部にある雄しべと雌しべにハチの背中が触れることになるのです。社会性があり、蜜の在りかが分かると頻繁に訪れる習性を持つマルハナバチを花粉の媒介者に限定することで受粉効率を高める。これがツリフネソウの戦略です。もっとも、上には上がいるもので、クマバチなどは花には潜らず、外から口吻を突き刺して蜜を盗み取りしてしまうそうです。花にとっては迷惑千万な昆虫ですね。

タイアザミ（右上）はキク科植物ですが、先に述べた舌状花はなくすべて筒状花からなっています。筒状花は長いため口吻の短い昆虫には蜜を吸うことができません。この花を訪れるのはアゲハ類や大型のハナバチ類。彼らが花に触れると面白いことに花粉がもこもこと湧き出してきて虫の体に付着することになります。本当かどうかアザミの花が咲いたら一度試してみてはいかがでしょう。午前中に新鮮な花をみつけ、柔らかな筆などでそっと触れるのがコツです。

ふだん何気なく咲いているように見える花。そんな花のひとつひとつにも生き残るための様々な工夫が凝らされているのです。

内野　郁夫（本会、理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

本会が協力したイベントを
写真で報告します

東海大望星高校ではSPP講座の様子を文化祭（10月30日）にて報告

高井戸中学校では学芸発表会（10月29日）にて上智大学アジア人材養成研究センター協力のもと、本会の積み木３万個でアンコールワットを製作。
いずれのイベントも来月号以降で詳細を報告します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版